

豊見城城址公園跡地利用基本構想図

(平成25年3月 豊見城市)



城郭内の整備方法
 グスクは城郭及びそのバッファとなる外周部分まで含めて保全の対象とする。城壁は復元を基本とし、厳正復元と推定復元の箇所を区分しながら進める。城郭内は広場整備が基本だが、他のグスクと比べて広いので、グスクの雰囲気や壊さない範囲で、別の機能(イベント広場、展望台、キッズキャンプ場、市民農園等)を導入することも検討される。



グスクガイダンス施設
 グスクの入口付近に完成予想ジオラマ等を展示したガイダンス施設を設ける。



民間ホテル
 空手道会館の雰囲気とマッチする宿泊施設を整備する。竹富島の「星のや」のような低層施設が景観と調和し、海外からの利用者等に空手の総本山としてのイメージを訴えかける。もしくは客室数の少ないラグジュアリーホテルとしての展開も考えられる。



体験学習センター
 空手道会館の雰囲気とマッチした緑地・広場の中に、体験学習・観光交流に資する施設を整備する。イメージとして恩納村の「ふれあい体験学習センター」のような施設が挙げられる。



空手道会館
 平坦で、展望もよい場所にあたり、空手道会館の候補地である。会館は低層で整備されると予想され、見晴らしを確保するために周囲に他の高い建物はなるべく配置しないように調整する。

※写真はイメージ



城壁の復元
 豊見城グスクの城壁は、往時の地形に合わせて城壁がめぐらされていたと考えられ、発掘調査等により往時の地形及び城壁の遺構等が発見されれば、推定復元できる可能性が高い。
 残された写真・映像資料等から、石積みは城門付近が布積み、その他の部分は野面積みであったと想定される。城壁の高さは、発掘調査の結果や活用方策等を考慮して復元する必要がある。

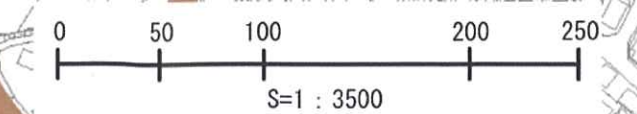
斜面緑地；環境保全・修景
 斜面緑地については、現状として良好な緑地帯を形成しており、ラムサール条約登録湿地である漫湖や鳥獣保護区と近接していることから、現状の植生を保全し、自然環境を損なわない範囲で活用することが考えられる。



西原門・豊見瀬御嶽の門
 豊見城グスクにあったとされる大きな三つの門の内、西原門あるいは豊見瀬御嶽の門を撮影したとされる写真資料等が複数残されており、発掘調査等により門の位置が判明すれば、城門の高さや意匠について高い精度での復元が可能であると考えられる。
 ただし、資料は全て同じ門を撮影したものである可能性もあり、撮影された城門の同定が必要。

南風原門
 南風原門と推測される写真等が残されておらず、また場所についても不明瞭である。発掘調査等により南風原門の位置が特定できれば、他の城門の写真等を参考に参考復元できる可能性がある。

城址エリア全体；往時の地形復元
 削平段や隘路、堀、飛び地部といった地形は、防衛拠点としてのグスクを理解することに役立つと考えられるため、調査により往時の地形が判明すれば、地形復元等の手法を用いることも考えられる。



(※土地利用構想A,B,C案複合型)

